

去る3月25日読売新聞朝刊トップに載せられた「北里大学2700万円不正受給 国の研究費、公表せず」の記事は、本学にとってこの上もない不祥事であり、学内外から本学執行部に対する信頼がより一層失われる事態を招くと共に、以前から学内において批判的となっていた本学役員の身体に染み着いた、都合の悪い事実に対する隠蔽体質が白日の下に晒される結果となりました。

文部科学省からは、本件事実関係の徹底調査、回答を求められたのにもかかわらず、未だ調査結果を回答、公表できない体たらくを呈しています。

その中で、本学執行部が問題解決を長引かせて焦点をぼかす方向にもって行く意図をもって設置した第三者調査委員会は、次の6名のメンバーによるものです。

中央区銀座2-6-4 竹中銀座ビル6F

影山法律特許事務所 影山光太郎氏 同 園山佐和子氏 同 伊藤蔵人氏

中央区銀座6-9-7 近畿建物銀座ビル7階

安部公巳法律事務所 安部公巳氏

品川区南大井6-17-15 第2タジマビル401号

税理士法人ファースト会計事務所 松澤進氏

川崎市宮前区菅生2-16-1

聖マリアンナ医科大学名誉教授 長田博昭氏

6名の委員選考は、学内で統治能力は皆無と評される常任理事会によるものであるため、調査結果を期待する声は聞かれません。しかしながら学内では公然の秘密であり、不正発生時の医学部長で当該厚労科研費の研究代表者である相澤好治現学事担当常任理事による補助金からの裏金収受の事実露呈が本学全体にとっては再起不能の事態を招くこととなるため、何としてもこの事実を隠し通せばならないとの歪んだ覚悟をくくっていることもまた事実であります。そのため、第三者委員会の委員全員が、何度調査を繰り返しても本来明かすべく事実が表に出ず、委員自身が証言から納得できる心証を得ることができないため、調査の繰り返しを重ねているのが現状です。即ち、北里大学の現状は、罪を犯した人間とその管理者が罰を負うという普通の判断が下せず、地位にしがみ付くために誤魔化しを重ねるといふ惨状にあるのです。

このような状況の中、今度は新たな不正隠蔽の事実が発覚しました。北里大学医学部解剖学埴原単位埴原恒彦教授は、文部科学省日本学術振興会科学研究費補助金を受けていました。その埴原教授が約1年前の夜半、東京都中央区で交通事故に遭って重傷を負い、教育研究活動が不可能な事態に陥り、今現在も休職中の身であります。当然科研費による研究活動も完全停止の状況です。事故発生により当時の医学部事務長は、日本学術振興会に対して研究続行不能による科研費辞退を申し出ようと本部に協議をしたのですが、その当時、今回の読売記事のような事態が予測できなかった執行部は、この件を黙殺しました。その時協議を受けた遠藤尚光事務本部長は、「後から辻褄を合わせれば何とかなる」と言っただけでした。ところが今になって読売の記事の影響をみて急に怖くなった遠藤事務本部長らは密かに謀議を重ねた結果、今更

事実を公表することは到底出来ぬと判断して、再び事実の隠蔽を図りました。この時協議したメンバーは、大石茂郎人事担当常任理事、相澤好治学事担当常任理事、奥野善彦監事、遠藤事務本部長の4名です。相澤理事だけは事実関係の公表を強く主張しましたが、他の3名はこの主張を遮りました。相澤理事としてみれば埴原事件の公表により、自身の件が薄まるとの強い期待があつての主張だったようですが、他の3名にとって本件の露呈は、執行部全員の即時辞任に直結するものであるため、保身中心の彼らにとっては何としても避けねばならない事態だったのです。

以上、北里大学の現在の真実の姿をお伝えします。

厳正なる報道をもって腐りきった現執行部の粛清を、何卒宜しくお願い致します。

平成25年6月22日

北里大学有志一同